

1. 本園の教育目標

「心豊かな たくましい 子どもを 育てよう」⇒ふかえっ子の育成

<p>教育理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ 「おはようございます」 ・おもいやり「どうしたの」 ・かんしゃ 「ありがとうございます」 	<p>ふかえっ子の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気で伸びのび明るい子 ・集団の中で自分を生かせる子 ・よく聞き よく話し よく考え 最後までやりぬく子 ・よく遊び創造する子
--	--

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果・取組状況	今後の課題
<教育目標、理念>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が率先してあいさつを行うことを続けたところ、自ら積極的に挨拶ができるこどもが増えた。 ・生活に必要な活動を、自分で丁寧に出来るよう声かけを行い、身の回りを清潔にしたり、友達同士や自身で生活の場を整えようとする姿が見られるようになった。 ・子どもたちの話し合いの機会を作り、相手の気持ちを理解するように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の「ふかえっ子」の姿を職員が意識してつねに日々のふりかえりを行う。 ・保育者が自ら率先してあいさつを継続し、園内のみならず地域にも意識を広げる。 ・生活に必要な活動を自分で行え、自ら身の回りを清潔にしなが、周りにも声をかけながらみんなで生活の場を整えるようにする。 ・みんなで使う共同の用具を大切にできるようにする。
<室内園庭環境>	<ul style="list-style-type: none"> ・その時々の子どもの姿や、季節や行事を意識して絵本を配置することで、こどもの絵本への興味が高まり手に取る姿が増えた。 ・玩具の補充を行ったところ落ち着いてあそぶ姿や考えて作る姿が見られるようになった。 ・メダカやカブトムシの飼育が循環し、七夕の笹竹も自給する等園庭での自然環境が充実し子どもの生き物や植栽への関心が高まった。 ・園庭での遊具を追加、遮光ネットを拡充し戸外での遊び環境の充実をおこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図鑑や食育教材等更なる絵本の補充を行い、読み聞かせや事前学習の時間を増やす。 ・学年や時期等子どもの姿に応じた玩具の入れ替え等よりきめ細かい環境設定を行う。 ・コーナー遊びや廃材を取り入れた遊びを取り入れ、子ども自身が自ら考えイメージを出し合いながら友達同士で遊びを進められるような環境設定を工夫する。 ・園庭環境を活用した遊びについて職員の意識を高める。
<健康、保健衛生管理> ・感染症対応 ・室内や備品等環境対策	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い指導を行うことにより子ども自身が丁寧に手洗いすることができるようになった。 ・感染症情報を家庭と共有し予防等対策をとることができた。また早めの学級閉鎖により蔓延を最小限におさえることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分で意識できる環境を整える。 ・教室の衛生環境をより改善する。 ・個々のこどもの状況を丁寧に看取れるようにする。 ・感染症等に対する保護者の理解と連携を維持する。
<安全管理体制>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震、火事など絵本で知る機会をつくるなど子どもが自分で身を守る方法を伝えながら、実際に想定した避難訓練を実施した。子どもと避難の方法を考えながら危機管理能力を高めるよう努めた。 ・大地震の発生を受けて、園庭の危険箇所や物の点検を行った。また各送迎コース沿いの安全点検と避難場所を確認した。園庭東側のブロック塀の補強を行った。またチェック表により定期的に行うこととした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の防犯・安全管理の意識向上と研修を行う ・朝礼や終礼、記録を通じて職員間の情報共有を進める。 ・職員間での引き継ぎや打ち合わせ確認を行い徹底する。 ・研修等で学んだことを積極的に保育に活かしていく。 ・教材のより一層の充実を行う。
<食育>	<ul style="list-style-type: none"> ・植栽飼育により季節の野菜を知り、食べ物への関心が深まった。 ・栄養士との交流や食育指導により調理体験の意欲が高まり、調理者への感謝の気持ちももてた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員自身が栽培方法の知識を深め楽しんで取り組む。 ・子どもたちが主体的に取り組めるよう教材や保育方法を工夫する。 ・食による体の働きや栄養が理解できるように栄養士とより連携し食育に取り組む。
<特別支援>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修を重ね記録による教員情報共有を進めを保護者と連携を行うことで園児理解を深め、個別対応を適切に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き園内外の研修を継続し職員全体の理解を深める ・丁寧な記録を心掛け支援児に関わる職員の連携を図りクラス運営につなげる。

<p><教職員組織></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼や終礼により振り返り、記録による他職員へ伝達を行い緊密な情報共有を行うことができた。 ・職員間での引き継ぎや打ち合わせ確認を徹底した。 ・行事等の分担仕事で職員同士の仕事を補い助け合うことができた。 ・学年でクラスの様子を振り返り自らの保育に活かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講した園外での研修の内容を伝達し積極的に活用する。 ・職員研修を増やし、全学年、預かり担当と連携し情報交換を行っていく。 ・職員間の連絡体制を迅速、緊密化し強化する。 ・事務の省力化や連携の強化のための方策を模索する。
<p><地域></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流の機会を充実することにより地域資源に触れ、挨拶を交すなど交流することができた。 ・地域行事に出演し幼稚園教育への理解を広げることができた。 ・園内行事へ地域を来賓として招待しともに子どもの成長を見守って頂くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園や商店街に出かけ地域の方と関われる機会や自分たちの住んでいる街のことを知る機会を多く作る。 ・地域の行事に参加し、人の役に立つ喜びを感じながら、地域に貢献することを理解する。
<p><家庭との連携></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスだよりやブログで園の様子を伝えながら、保護者への連絡で個々の子どもの様子を伝え信頼関係を築くことができた。 ・個人懇談で子どもの様子に加え課題も伝え家庭と連携できた。 ・送迎時等に保護者と直接話ができる機会を作れるよう心掛けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き保護者との連携を心掛け保護者の安心と信頼関係を築いていきたい。 ・職員同士共通理解のもと保育に関わっていくことと同時に保護者にもそのことを伝え共有できるよう努める。
<p><子育て支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て家庭との連携 ・未就園児親子登園事業 ・預かり保育と学童保育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログで園の様子を即時性をもって掲示を心掛け、幼稚園での活動の様子を伝えることができた。 ・園庭開放の充実を行うことで未就園児親子の参加を促すことができ家庭教育の支援につなげた。 ・未就園児親子が幼稚園の雰囲気や教育についての理解が深まる機会や保護者同士の交流の場とすることができた。 ・学童保育については、プログラムも充実し参加者が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き即時性のあるブログを心がけ、内容を子どもの成長を意識したものとなるよう努める。 ・園庭開放を継続し内容をより充実させることで未就園児親子の参加を促し、子育ての楽しさを実感してもらおう。

3. 学校評価の具体的な計画の総合的な評価結果

新制度に入り4年が経過した。職員配置も充実した半面、職員数の増加や役割分担による様々な課題が明確になったが、解決に向けて組織の仕組みや職員の意識の改革が進んでいる。10月より国による無償化が実施されるが、保育認定に関わらず必要量に応じた保育を提供することで、就労支援を確保しつつ預かり保育の子育て支援機能を継続する。また長時間保育への対応から個々の興味関心に応じた遊びが充実するような環境設定への職員の理解が進み改善が行われつつあるが、この視点をさらに漸進させながら、職員配置や保育内容を見直していく。幼児教育は園と家庭が車の両輪で行われるものであり、父母の会活動を通じて地域の幼児教育に対する関心や理解が深まり子育て環境の向上につなげることができる。また活動を通じて保護者自身の気づきや経験、関係性が広がり、親自身の成長につなげたい。時代の状況に対応し、本来の目的に立ち返り、活動のスリム化を図りながら継続可能な組織運営を模索し維持できるようにしたい。

4. 学校関係者評価

卒園児や保護者など地域の有志による関係者評価委員会を運営。
 地域からの園児の見守りの他、行事の見学や園児との交流会に参加して頂いて評価の根拠としている。
 委員会では、園のアンケートと職員の自己評価が適正に行われていることを確認して頂いた。

5. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されている。